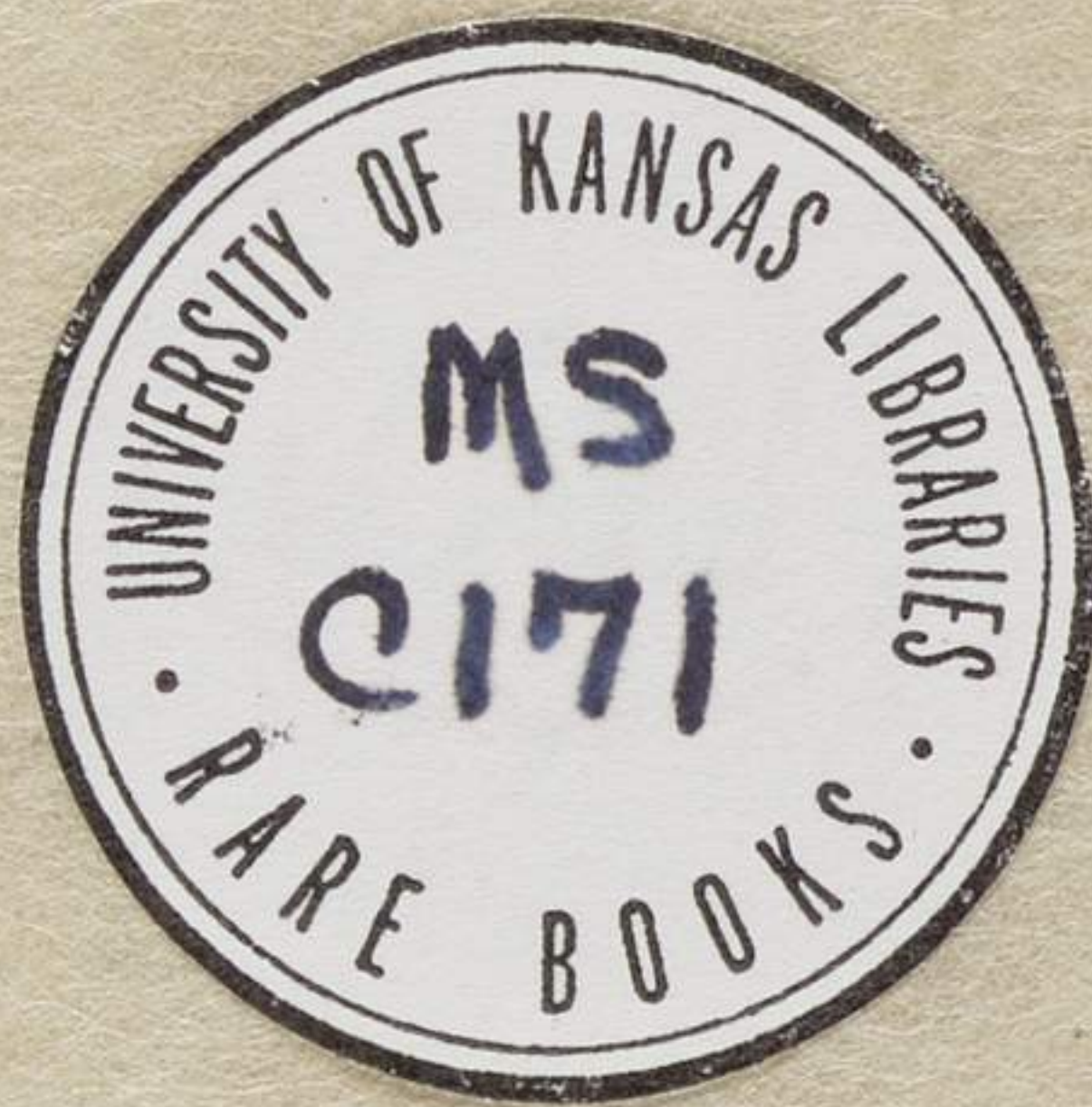
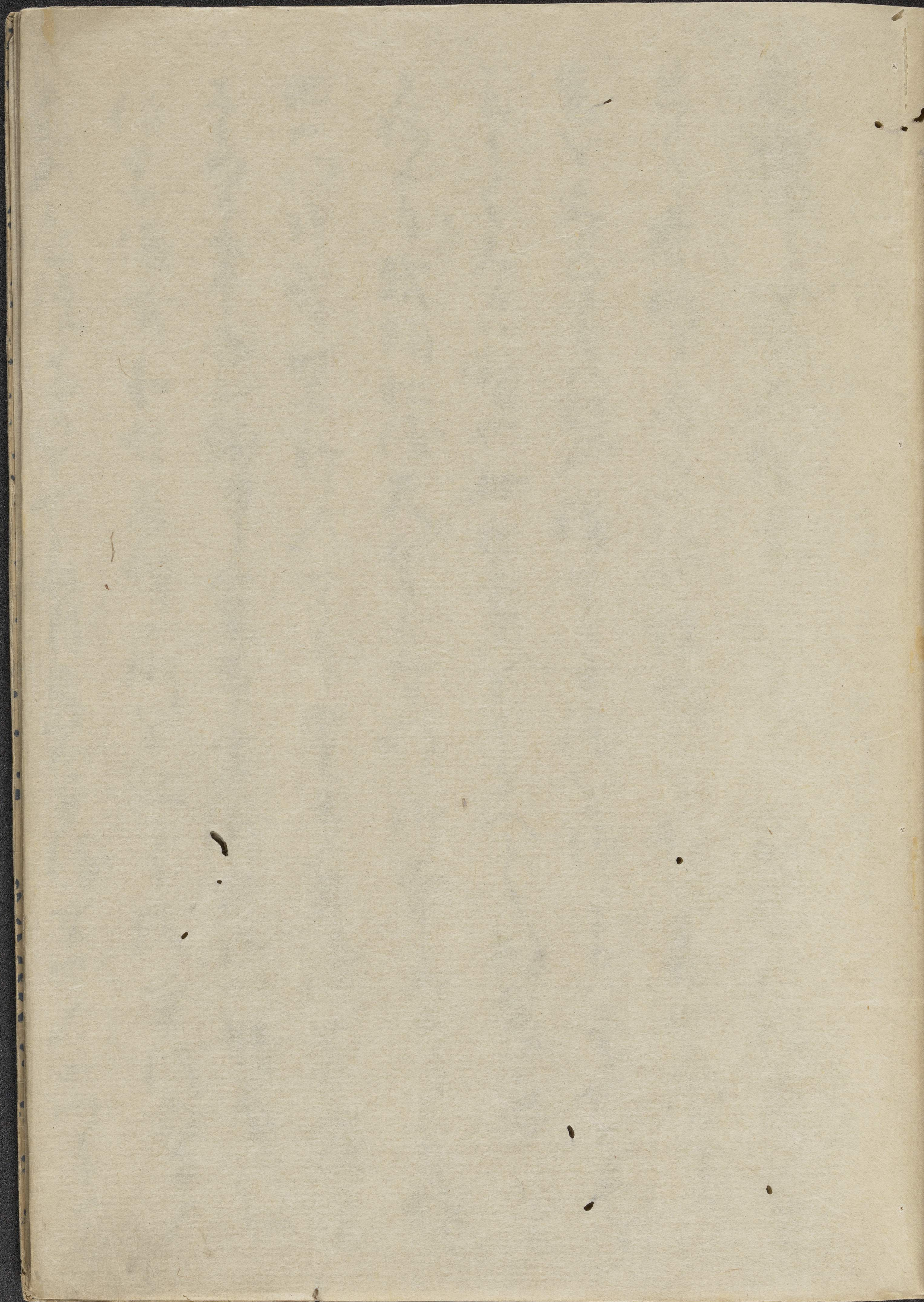


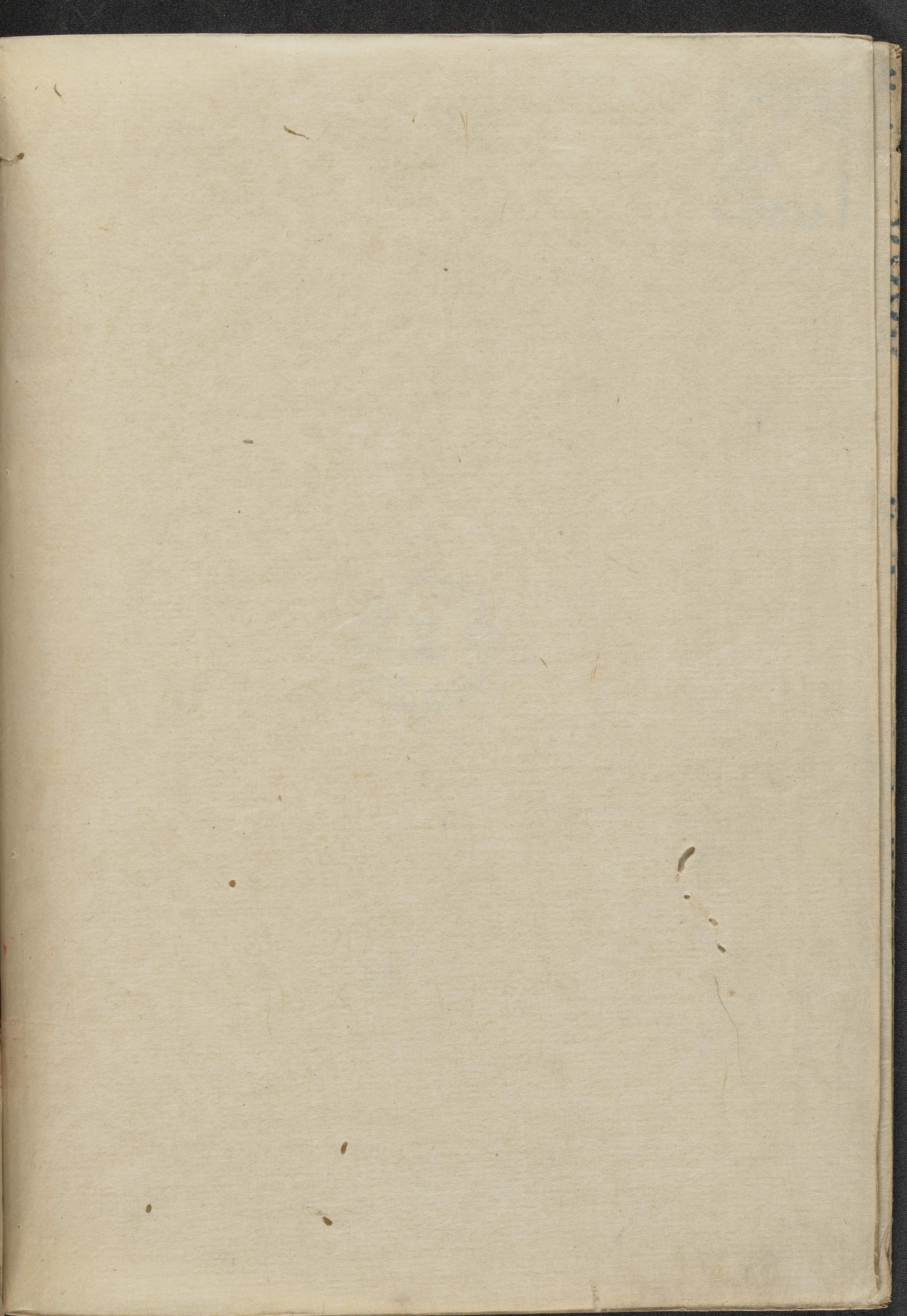
白雁記



登錄第	2942	號
第	VIII	門
第	3	部
記號	D.	
函架		
平野圖書箋		







白鷹記

後普忠園抄政三自書と

又後切

凡鷹馬、馬走の精氣と蓄く鍾岱の精氣と生
まると、若くはなると、秋賦と初義や、人食するに
先と、馬走ると、敵や、侍するに、法と、行ると、言や、まると
し、く、人、の、智や、此、の、事や、と、く、く、人、衆、衆と
く、移り、我、相、仁、法、天、宮、り、ま、り、御、幸、か、り、り、成
の、心、洋、野、禁、野、の、り、宇、多、并、河、志、の、道、遠
る、り、事、也、部、の、食、平、多、部、の、御、情、有、れ、
得、志、儀、式、和、野、玉、群、刷、と、記、一、法、主、氏、部、の
通、の、志、統、る、り、と、や、毎、月、の、志、と、法、が、ま、る、り、と、つ、ま、る、

氣を帰し山城を治す軍のちから
奇襲あり。安甲斐国武田信玄の
ちの所の白鷺。其れ雁のなるもの
是毛をうとて。成其の鴈とせしむ
なり。その首の白線とて。その
毛の斑とて。きせし。その首の
毛。その羽毛。その羽毛。その
し。後の。その羽毛。その羽毛。
その。その。その。その。その。
眼。その。その。その。その。その。

へー月のみかへはるく橋座へ鼻を

度大の菊里くふおつり頭あけかきむく

ものしるのへ肩むくきくはひさりて

といのもきくくさとしさうれ毛あきとくやちりて

そのも打羽やと鈴とてくくく一の羽節

とさくくあ羽さくくくくかへくくくく

ふとさびとさうやちきくくのもあへくくく

はゆとさささり羽雲くくくくくのく

四りのちりちりあくくく毛はくくく

くくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく

虎魁多助背給尾鳴羽石子其川尾く
 ちしきうこせりくくくくくくくくく
 風の定くふあり睡風子風る右海のま
 ちいしくちやとくくくくくくくくく
 くと其数くくくくくくくくくくく
 記まのくくくくくくくくくくくく
 端素くくくくくくくくくくくく
 奇物地州名異人等くくくくくく
 ちや

永和三年一月

北朝 54110115



